

2022年度 第2回 防災委員会 議事録

開催日時：2022年9月17日（土） 14:00～17:00

開催場所：福岡商工会議所 B1-c 号会議室及び Web（Zoom）併用

会場参加者：味澤泰夫・有村研一・梅田和久・香月裕宣・西井康浩・持田拓児（6名）

Web参加者：荒川直樹・池田圭一・寺田利博・中田敦也・中村勲・南嶋佳典・宮本修・園田直志（長崎県支部）・津山輝男（熊本県支部）・松川浩一（宮崎県支部）・樗木秀人（鹿児島県支部）（11名）

欠席者：石本俊亮・岡田裕彰・緒方正隆・箴島秀利・北里憲章・田辺努・久富浩明・松本義信・八百屋さやか・江口友弘・古賀浩史（佐賀県支部）・高橋浩一（大分県支部）（12名）

1. 防災委員による発表会と質疑応答

講師：香月 裕宣 氏 「八女・朝倉災害と地質業界の役割について」

【発表内容】

(1)八女災害（2012年）

- ・福岡県八女県土整備事務所より「管内の被災した県道は重要な生活基盤で、早急に通行を確保したい」ための現地調査の依頼が福錐会（福岡県の地質調査会社で構成する団体）にあった。ミッションは「仮復旧計画への問題点を抽出すること」であった。
- ・1/2000程度の地形図を収集し、延べ30名以上の技術者で6路線の現地調査を行い、被災箇所をデータシートとしてとりまとめた。また、調査結果に「復旧を進めてよい」「応急後、可」「復旧を進めてはいけない」の3段階の評価を加え、報告した。
- ・八女災害のイメージ：県道と並行している河川の攻撃斜面で崩壊、地すべり
道路から川のように雨水が流れ、斜面に流下して崩壊

(2)朝倉災害（2017年）

- ・福岡県朝倉県土整備事務所より福錐会に対し、被災した管内県道の現地調査及び「南北ルートの県道を啓開したいが、どのルートが可能か」という災害協定に基づく要請があった。
- ・地形図を入手、地質を専門とする技術者が集合、現地調査を行い、八女災害と同様に取りまとめを行い、報告した。
- ・朝倉災害のイメージ：斜面の崩壊 土砂が流木とともに河川に流される
大量の斜面崩壊の発生
- ・東西方向と北西 - 南東方向の構造系、結晶片岩と花崗岩の分布について説明。

【質疑応答】

Q（西井氏）：がけ崩れと地すべりとの違い、さらに土石流とは？

A（香月氏）：がけ崩れは一気に崩れる。地すべりは動いたり止まったりを繰り返す。朝倉は崩壊性、八女は緩慢な動きをする地すべり。崩壊した箇所の元地形を見ることにより、地すべりかどうかを判断します。

Q（西井氏）：地すべりは「円弧すべり」と同じように、引っ張り亀裂線が山側に発生し、“水みち”のようなすべり面に沿って、すべり崩壊が生じるという考え方でよろしいでしょうか？ この“水みち”では、過飽和状態から土粒子間の摩擦抵抗がいきなり失われ、滑ってゆくというイメージを持っていますが、このイメージで間違っていないですか？

A（香月氏）：その考えでよいと思います。

Q (榑木氏): 地形図が入手困難とのことだったが、google map や国土地理院地図では精度的に足りないか？

A (香月氏): 被災後道がなくなっている場合があるので、1/1000 程度の詳細な地形図が欲しい。デジタルデータ (点群データ 100 点/m²以上) や赤色立体図が入手できればよい。

Q (榑木氏): 被災時の写真、画像データなど情報共有できないか？

A (香月氏): 福岡県県土整備部と福維会とで災害協定を結び、調査を行った際の写真なので、オープンにはできない。現在、情報共有できる仕組みはできていない。

Q (味澤氏): 現地踏査して、斜面が「危険・安全・中間 (どちらとも言えず?) 」と、評価する判断基準 (根拠) を教えて欲しい。

A (香月氏): 3 つの評価の仕方は難しい。だからこそ、山の中に入って現象をよく見ている。明確な答えはない。見えている土砂の状態を見て切土勾配を決めたりするが、地すべりの場合、斜面末端部をカットすると不安定になるので、気にしている。山の上まで上がってクラックの有無で危険かどうか判断している。また、これまでの経験も加えて判断している。

Q (味澤氏): 実は、九州自動車道建設現場の切りっぱなし法面に、法面保護工を必要とする「設計変更資料 (設計検討書) 」を添付して公団に協議を申し入れたが、却下された。ところが、その後公団が依頼したコンサルの技術士 (応用理学) が調査に来て、暫くしてから法面下段は H = 3 m のブロック積工で上段は吹付工 (モルタル) に設計変更された、と言う経験を持っている。技術士 (応用理学) の能力は素晴らしいと感じた。

A (香月氏): 難しいところで、数値で表せない地質の世界。たくさんの情報を収集し、メカニズムを読み取って判断することが必要だと考えている。

2 . 拡大委員会

(1) 各県支部の活動報告

1) 鹿児島県 (榑木氏)

活動報告

- ・令和 3 年 CPD 研修と県支部防災委員会を実施。

活動計画 (防災委員会、CPD 研修計画)

- ・新たに「防災・減災の勉強会を計画」する。
- ・「支部 10 周年記念事業」での「防災・減災関係のパネル展示」を計画。

SAPD (災害時支援活動計画) について

- ・作成できていない。鹿児島県内の他協会では災害支援協定を結んでおり支部会員もその中で活躍している。また、県支部としてはできることを模索している。

災害碑や災害に関する言い伝え 委員会資料 参照。

2) 宮崎県 (松川氏)

活動報告

- ・みやざきシェイクアウトに参加 (R3.11.5) 。
- ・CPD 講習会 (R4.9.3) 。

活動計画

- ・みやざきシェイクアウトに参加予定 (R4.11.4) 。

SAPD（災害時支援活動計画）

- ・作成していない。支部としてどのように活動するか考えていきたい。
災害碑や災害に関する言い伝え 委員会資料 参照。

3)長崎県（園田氏）

活動報告

- ・長崎県技術士会会報誌の発行。
- ・長崎県内災害時協定に基づく諸活動の報告会（R4.8.5）

SAPD（災害時支援活動計画）

- ・作成してしない。各県の対応をみながら取り組んでいきたい。
災害碑や災害に関する言い伝え 委員会資料 参照。

4)熊本県（津山氏）

活動報告

- ・先進建設・防災フェアにブースを出して参加（R3.11.24～25）

活動計画

- ・先進建設・防災フェアに参加予定、現在準備中（R4.11）

災害碑や災害に関する言い伝え 委員会資料 参照。

持田委員長コメント：被災時の安否確認を行うことも含めて、「緊急時のメーリングリストを県支部で作成」までは実施していただきたい。

(2)各県支部との意見交換等 なし

3．各WGの報告

1)WG1：「災害リサーチチーム」の報告（南嶋氏）

- ・前回の委員会以降、活動ができていない。
- ・WG2の会議に南嶋氏が参加（R4.9.7）
- ・情報提供として、ため池の危険性についての動画について紹介。

2)WG2：「災害リスク管理チーム」の報告（石本氏欠席のため持田委員長より報告）

- ・感田小学校防災授業で使用する教材についてweb会議（R4.9.7）。

3)WG3：「災害サポートチーム」の報告（香月氏）

- ・直方市防災教育学校協議を実施（8月29日 植木小、感田小）

- ・今後の予定

10月7日 感田小打合せ（5年生への防災授業について）

10月19日 植木小4年生への防災授業。

- ・防災授業を学校の先生にバトンタッチし、技術士会はサポートに回る方向で考えていたが、学校側から専門家による説明の方が生徒には刺激があるとの意見があり、今後の対応を検討していく予定。

4．その他報告・連絡事項

- ・「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2022」の進捗状況について説明（津山氏）
- ・防災委員による発表：次回は八百屋さやか様の予定。
- ・「技術士だより」への寄稿について、寄稿者や話題が偏っているので、今後の在り方、進め方について委員長から問いかけがあった。意見交換を行ったが、委員長から改めてアナウンスすることと

なった。

- ・ 防災支援委員の任期について、今年度で持田委員長が2期4年（通常の任期期限）となるが、3期目までは可能（3期を限度とする）であることから、3期目を務めることで防災委員会の承認を得た。

次回の運営委員会

- ・ 令和4年11月19日（土）14時～17時 開催を予定（商工会議所とWeb併用の開催）

議事録作成者：池田圭一（2022年9月24日）